

消防学校だより

令和6年1・2・3月号

発行年月日 令和6年3月22日
発行 宮崎県消防学校

火災調査科

1月22日(月)から2月2日(金)までの2週間で、火災調査科を実施しました。

研修には県内10の消防局、消防本部から16名が入校し、火災調査書類の作成、火災調査関係法規、鑑定など火災調査に関する専門的なカリキュラムを実施しました。

今回の研修で学んだ知識と技術を生かし、火災原因調査の精度を向上させます。



総代 結城 昭彦(串間市)

火災調査科

1月24日(水)、宮崎市消防局から長友 遵一主幹に来ていただき、損害額評価・算出要領、種別・項目並びに災程度、死傷者などについて講義していただきました。



火災調査科 (ストーブ・ガステーブル火災鑑識要領)

1月24日(水)、都城市消防局から藤村 修平副主幹に来ていただき、機器の使用立証のための講義と実習を行いました。

ストーブ、ガステーブルを分解した後、組立し、構造、作動原理、安全装置の原理を理解するとともに、焼損したガステーブルを見分し、使用立証するための調査要領を学びました。



火災調査科 特別研修 (火災調査の進め方・要領・鑑識方法)

1月25日(木)、総務省消防庁 消防大学校から小川 貴之助教授を講師に招き、火災調査の進め方及び要領等について講義していただきました。

火災調査については、消防法第31条に、「消防長又は消防署長は、消火活動をなすとともに火災の原因調査並びに火災及び消火のために受けた損害の調査に着手しなければならない」と明記しており、消防の義務である事を十分に理解し、それに基づく権限や協力を得ながら、火災原因の迅速化と救命率を向上し、住民生活の安心安全の確保に努めなければならない。また、「調査」は二度とやり直しが出来ないため、火災調査の手順や基本的な留意事項を十分に理解しておくことが大切である等話をされました。



火災調査科（写真撮影基礎）

1月29日（月）、宮崎第一中学高等学校から廣野 朋子教諭を講師に招き、写真撮影の基礎を学びました。現場に於ける記録の多くはカメラによってされるため、カメラの基礎的な知識や撮影方法について講義していただきました。



火災調査科

1月29日（月）、And Ray 代表の滝 玲子氏を講師に招き、「質問で不快にさせない、齟齬が生じない方法」と題して、火災調査時に、質問や回答で見解の違いが生じないように相手方に対する話し方について学びました。



火災調査科（鑑定）

1月30日（火）、県警科学捜査研究所にて工学鑑定官の方から火災調査について講義を受けました。

様々な燃焼機器（ガスコンロ等）の構造を学んだ後、鑑識用石油検知管の実習を行い、鑑定の概念や見分要領を学びました。

また、分電盤、配線を作成し短絡痕の確認を行いました。電気配線類は、絶縁被覆とって電気を通しにくい塩化ビニールやゴムなどを巻いて中の導線同士が接触しショートするのを防止した構造になっています。ところが被覆が損傷し熱により焼失した場合、導線同士が接触してしまいショートが発生し、その部分に球形の痕ができます。この現象は、火災の原因ともなり通電していた立証ともなります。



火災調査科（シミュレーション）

各班が現場を造り、その現場に対し、他方の班が、覚知、到着から鎮火までの一連の消防活動を行うとともに、研修で学んだ調査手順で火災原因調査を行いました。

最終日の火災調査発表にて、想定を受けた調査実施班が調査結果を報告し、想定提示班の回答とともに検証を行い、各学生の調査技術向上を図りました。

調査実施班（2班）



調査実施班（1班）



火災調査科は2月2日、全てのカリキュラムを修了しました。

消防団指揮幹部科（現場指揮課程）

2月24日（土）・25日（日）、2月27日（火）・28日（水）、3月2日（土）・3日（日）で消防団指揮幹部科 現場指揮課程第3次、第4次、第5次を実施しました。

研修では、現場指揮や安全管理などの部隊運用に関する訓練と、地域防災指導など、地域防災の向上に関する研修等を行いました。

昨今の消防活動は、火災・各種事故、自然災害はもとより、様々な事象に対応しなければなりません。各団員は、自らが消防団の中核となる人材である自覚を持ち、真摯に教育訓練に取り組みました。

3次入校式



4次



5次



訓練



第63期初級幹部科 入校



総代 工藤 淳一（西白杵広域）

3月4日（月）から3月15日（金）で第63期初級幹部科研修を実施しました。

研修には、県内消防局・消防本部から24名の学生が入校し、初級幹部職員としての心構え、消防財政や現場指揮など、リーダーとして必要な総合教育訓練を実施しました。

初級幹部科 財政講義

3月5日（火）、消防の予算の仕組みについて、東児湯消防組合消防本部総務課長 河野 哲司令から講義していただきました。

幹部職員として消防財政を理解し、消防組織の運営に必要な予算の流れを学びました。

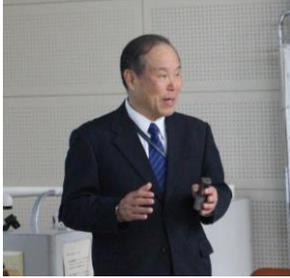
組織運営、部隊運用や資機材購入など、職員や車輛等の資器材を動かすには予算が必要です。消防財政を理解し、より良い組織づくりに取り組んでください。



初級幹部科 安全管理 CRM（特別教育）

3月5日（火）、航空業界の安全管理について、航空大学校 梅原 行男特任教授から講義をしていただきました。CRMとは、利用可能な全てのリソース（人、機器、情報など）を有効かつ効果的に活用し、クルー全員のトータルパフォーマンスを維持して、危機を乗り越えようというリスクマネジメントの方法になります。

航空界だけでなく、ヒューマンエラーが安全に大きく関わる医療、海運、原子力発電などの分野にもCRMの考え方が広がっています。



初級幹部科 予防行政

3月6日（水）、予防行政について、宮崎市消防局予防課の大河内 洋幸司令補（法令）、山本 光太郎司令補（設備）、増野 勝士司令補（危険物）から講義していただきました。

予防行政は、火災が起こらないようにし、火災が起こっても被害が最小限になるようにし、消防活動ができるだけしやすくする事や、危険物施設においては、市町村長の名で設置許可の権限まで持つなど、法律上の大きな権限があります。消防目的達成のため、法令を熟知し適切な指導を行いましょ。



初級幹部科 緊急消防援助隊

3月6日（水）、緊急消防援助隊の運用について、県消防保安課 川口 哲史主査から講義していただきました。

今年初めに発生した石川県能登地震などの事例に触れながら、本県の受援体制にも触れながら話をしていただきました。



初級幹部科 ドローン運用

3月6日（水）、ドローン運用について、ライフクリエイティブ宮崎 新原 一容講師から講義していただきました。

法令改正など内容の濃い講義となりました。



初級幹部科 山岳訓練

3月8日（金）、双石山にて、山岳訓練を実施しました。この訓練の目的は、地図及び方位磁石を正しく使用して目的地へ到着し、状況に応じた活動の指揮が執れるようになることです。支援教官に西諸広域消防本部 岡原 由典消防士長を招聘し、2班に分けた小隊ごとにルートを変えて入山し、各指揮者の誘導で目的地へ集結後、県防災救急航空隊との連携訓練を行いました。



初級幹部科 LGBT・ハラスメント研修

3月11日(月)、LGBTとハラスメントについて、県人権同和対策課 田原 新一 専門員から講義をしていただきました。

健康とは、心と身体がともに健全である状態です。特に心の健康は目に見えません。互いに理解し合い、みんなが過ごしやすい環境作りを心掛けましょう。



初級幹部科 図上シミュレーション

3月11日(月)、指揮板の作成要領と、指揮隊の活動要領のシミュレーションを行いました。



初級幹部科

メンタルヘルスと惨事ストレス対応

3月12日(火)、メンタルヘルスと惨事ストレスについて、臨床心理士で公認心理師 首藤 啓介先生に講義していただきました。

凄惨な現場では、時に、心に大きな傷を負うことがあります。

心への適切な対応を修得し、深刻な状態にならないようにしましょう。



初級幹部科 現場指揮訓練

3月13日(水)、現場指揮訓練を実施しました。2週間の課程を通して、現場指揮(座学)、図上シミュレーションを段階的に行い、第一線で活躍する現場指揮者として、実態把握、状況判断、決断、命令と実行、報告と評価の指揮の基本パターンを実施できるように訓練しました。また、安全マットの配置、危険箇所での確保など訓練実施時の安全管理について学びました。



初級幹部科 学生企画訓練

3月14日(木)、学生企画訓練を実施しました。訓練の目的を明確にし、隊員の技術、能力に見合った訓練種目を策定し、訓練場所、使用資機材の選定、訓練実施隊や安全管理担当を明確に分け訓練を行いました。2週間の教育訓練の効果を確認できました。



初級幹部科は3月14日(金)、全てのカリキュラムを修了しました。

令和6年4月の主な行事

●第69期初任科生入寮

4月3日(水)

●第69期初任科生入校式

4月4日(木)

●消防団指揮幹部科 現場指揮課程2次

4月13日(土)・14日(日)

●消防操法指導員研修

4月17日(水)から19日(金)まで